

神戸医療生協支援ニュース

2011年4月 12日 第16号

第6陣出発しました！

■4月11日(月)無事出発しました。新神戸から行く2人を見送りに訪問看護STつばさのメンバーが来ていただけました。東京で、穀内さんや駒どり岸本さんと合流し、12日(火)9時15分、25名の支援者を乗せて東京を出発したようです。東京でも余震が続き朝食中にも結構揺れていたそうです。

関医師が支援に！

■協同病院の外来に来て頂いている、神大病院の関医師が、4/13~16の間、民医連の支援と言う事で行く事になりました。

■現地レポート

3月31日から支援に行ってる、稲垣さんの妹さんは、支援を遠投し、現在も宮城で支援活動を行っています。15日に支援を終え、帰ってくるようです。余震の事もありましたが、「大丈夫」との事でした。



坂総合病院の救急受付。救急患者さんを重症度別に分け、すばやく診る体制にした＝宮城県塩釜市

東日本大震災の被災地、宮城県塩釜市で医療支援に従事した兵庫県の神戸協同病院の上田耕蔵院長に、手記を寄せてもらいました(写真も)。3回にわたって連載します。

3月10日午前9時、東京と宮城県塩釜市の坂総合病院を結ぶバスに乗りました。途中パーキングにはいりませんが、我々のバス以外は自衛隊の車しか止まっていませんでした。午後3時に現地につきました。

坂総合病院は地震発生後、全国の民医連院所より医師・看護師・事務など一日150人から2000人の支援を受けて、救急医療と避難所支援などを展開してきました。

動かないベット
夕方、町の中をタダシで走ってみました。全く津波の影響がなかった街区から色が残る床下浸水の街区、続いて一気に壊れた車が散乱する地域にはいりました。あまりの落差に驚かされました。港灣工場や倉庫(自動車など)に隣接した住宅地では水は1階軒下まで来ていました。車や瓦礫が家にひっかかっていたり、家の中は破壊されました。泥やゴミが散乱していました。

被災地 医療支援して
神戸協同病院 上田耕蔵院長の手記

4月12日/赤旗に掲載された記事です。つづく・・・となっていますので連載です。

本日！関西テレビ
上田院長TV生出演

16時58分～の関西テレビ「アンカー」に、生出演します。

★録画→DVD がびんが出来る方がいらっしゃればお願いしたいのですが・・・ご一報お待ちしております！

高齢者の健康が悪化 「低体温症」「脱水」「肺炎」…多発

が見えませんでした。全自動がずり込んでいたように見えましたが、やこべットを見つけたら、あたりに高台はななすやうがなかつたのでしょう。海岸も少し歩くと、高齢男性にであいました。「たいへんでしたね」と

東日本大震災は、M0.5

声かけると、「娘を探しているが見つかからない。津波の時、1階にいたが流された。息子はイオンに買った物に出かけていたので助かった。」

どこへ避難しているのですかと聞くと、「自分の家の2階に住んでいる。寒くて手が震えるが仕方ない。灯油はない。こんなときに固形燃料でもあったら暖かいインスタントラーメンが食べれるのに」と言いました。

海岸沿いの新興住宅街(仙台市宮城野区蒲生荒田)は津波で町全体が流されてしまった。かなり向こうの方に数件傾いた家が残っているだけで、家は全く古しく残っていない津波で壊れた。愕然としました。あたりに高台はななすやうがなかつたのでしょう。海岸に2000、3000の遺体が並んでいたといま

健康状態は最悪
震災後1週間、被災地の健康状態は最悪でした。仙台にある石油基地の破壊のため東北地方全体が石油不足になり、灯油、水、食料などの物資や人的支援が届きにくい状況が続きました。避難者に聞くところによると、ビスケット2分の1枚しかあたらなかった。水はコップ1杯だった。数日目では1日に1〜2回、小さいオニギリがクラックだった。暖房がなく寒かったと話してくれました。厳しい寒さと水、食料不足から「低体温症」「脱水」「脳卒中」「肺炎」等になる高齢者が多数でした。

支援が全く届かず医療以前の状況に陥った地域もありました。病院施設は孤立し、患者さんや要介護高齢者を被災地外に搬送できませんでした。

暖房なし、電気が止まり、たんの吸引困難などの状況でたかさんの方が亡くなったのではないのでしょうか。移送中に亡くなった方も少なくありません。まるで発展途上国で大地震がおこったかのようでした。



土台が残ってない海岸に近い住宅街 仙台市宮城野区